

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日
配当金受領株主確定日	期末配当金：3月31日 中間配当金：9月30日
単元株式数	100株
定時株主総会	毎年6月
公告方法	電子公告 (https://www.fujimiinc.co.jp) ただし、事故その他やむを得ない事情によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載することといたします。
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先 及び照会先	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711 (通話無料)

株式会社フジミインコーポレーテッド

お問い合わせ先：経営企画部経営企画課
TEL：052-503-8181 (代表)
URL：<https://www.fujimiinc.co.jp>

Copyright (C) 2020 Fujimi Incorporated. All rights reserved.

各種手続のお申出先

- 支払期間経過後の配当金のお支払いについては、株主名簿管理人にお申出ください。
- 住所変更、単元未満株式の買取、配当金受取方法の指定等
証券会社をご利用の株主様は、お取引の証券会社へお申出ください。
証券会社をご利用でない株主様は、特別口座の口座管理機関である日本証券代行株式会社へお申出ください。

【ご注意】

特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、日本証券代行が口座管理機関となっておりますので、下記特別口座の口座管理人に、お問合わせください。

特別口座管理機関 連絡先
日本証券代行株式会社
〒168-8620
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
日本証券代行株式会社 代理人部
電話 0120-707-843 (通話無料)



この印刷物は、適切に管理された森林で生産された木材を使った環境配慮型のFSC®認証紙と、植物油を使用し、VOCの排出を抑えた環境対応型リサイクルインキ「ベジタブルインキ」を使用しております。

株式会社フジミインコーポレーテッド 株主通信

FUJIMI TODAY vol.51

2020.4.1 ~ 2020.9.30

2020年12月発行

特集

創業70周年トップインタビュー

技術を磨き、心をつなぐ

FUJIMI

証券コード 5384

おかげさまで70周年



お客様目線の実践

パウダー&サーフェスカンパニーへの進化

「働きがい」と「働きやすさ」の醸成

当事者意識とやり抜く力の確立

革新への挑戦



技術を磨き、心をつなぐ

私たちの「磨く技術」は半導体をはじめとしたさまざまな産業で活かされています。
 フジミはお客様にあらゆる製品を磨いていただくことで、人々が快適に暮らせる未来の創造に貢献します。

代表取締役社長

関 敬史

株主の皆様へ

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

》上期を振り返って

当社グループを取り巻く環境は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響により各国で経済活動が停滞し、また、貿易摩擦に加え香港問題等により米中対立の懸念が高まる中、世界経済は不透明感が一層強まりました。一方、世界半導体市場は、スマートフォン及び自動車の市場停滞の影響を受けたものの、新型コロナウイルス感染拡大防止のための「STAY HOME」に伴うデータセンター及びPC向けの需要増加により、ロジックデバイス、メモリデバイスともに市況は堅調に推移したことに加え、新型コロナウイルスの感染拡大や米中貿易摩擦の激化に対する懸念から在庫積み上げの動きが継続しました。

こうした状況下、半導体基板となるシリコンウェハー向け及び半導体デバイスの製造工程で用いられるCMP向け製品の販売が増加し、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高20,427百万円（前年同期比8.2%増）、営業利益3,718百万円（前年同期比29.9%増）、経常利益3,694百万円（前年同期比24.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益2,855百万円（前年同期比29.1%増）となりました。売上高は、リーマンショック前の2008年3月期には及ばないものの、営業利益・経常利益・四半

期純利益はいずれも過去最高となりました。

》2021年3月期の見通しについて

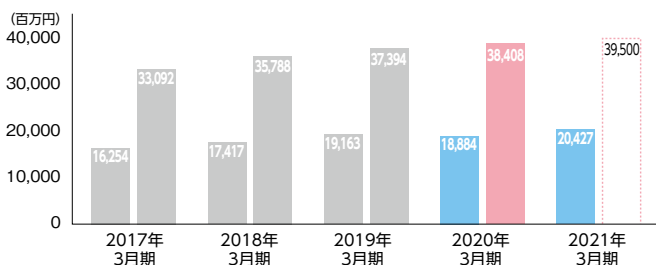
これまで未定としておりました2021年3月期通期連結業績につきましては、新型コロナウイルス及び米中貿易摩擦の動向が及ぼす影響は引き続き不透明であるものの、最近の事業環境を踏まえ、売上高39,500百万円（前期比2.8%増）、営業利益6,800百万円（前期比13.2%増）、経常利益6,850百万円（前期比10.9%増）、親会社株主に帰属する当期純利益5,200百万円（21.8%増）の予想を開示しました。また、配当につきましては中間配当は1株につき50円とし、年間配当金は1株100円（過去最高）を予定しております。

半導体需要は好調が続く中、半導体プロセスはより一層複雑化、あるいは微細化が進み、研磨技術に要求される難易度が高まっております。当社は、お客様の高度化する要求に応えるべく、引き続きお客様の視点に立った製品開発とものづくりを推進してまいります。また、売上の約8割を半導体関連が占めており、半導体依存からの脱却を図るため、新たな事業への挑戦にもアイデアを創出し、果敢にチャレンジしてまいります。

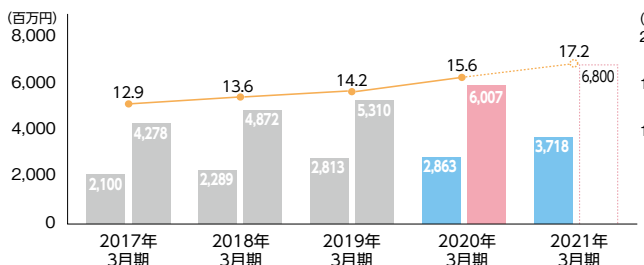
連結決算ハイライト

■ 上期 ■ 通期 ■ 通期 ※2021年3月期通期予想値

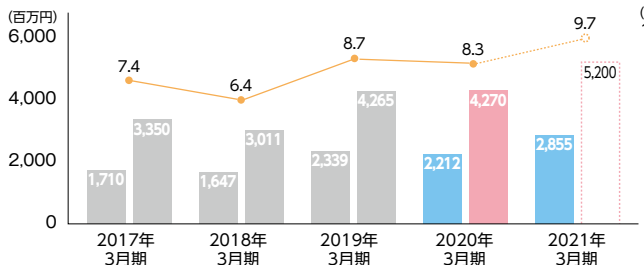
■ 売上高



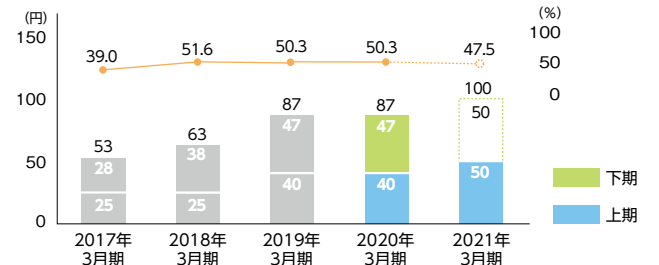
■ 営業利益・営業利益率 折れ線グラフ: 営業利益率 (右軸)



■ 親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益・ROE 折れ線グラフ: ROE (右軸)



■ 配当金・連結配当性向 折れ線グラフ: 連結配当性向 (右軸)





特集 創業70周年
トップインタビュー

前号に引き続き、創業70周年記念特集です。

今号では当社の創業から近年に至る取り組みを社長の関にインタビューしました。

創業70周年を迎えて

1950年に日本初となる精密人造研磨材（以下、研磨材）を製造し、同年10月21日製品の初出荷を機にスタートした当社は、この度、創業70周年を迎えることができました。

ひとえに、多くの方々からのご愛顧とご支援の賜物であり、心より感謝申し上げます。

この記念すべき機会に、私が伝え聞いている創業時の話と現在の課題及び取り組みをご紹介します。

研磨材製造までの道筋

1950年に当社は日本初となる研磨材を製造しましたがその研究は、1940年頃から行われていました。創業者の越山照次（以下、照次）が、名古屋のタイルメーカーに勤めていた時に太平洋戦争が勃発し、日本ではそれまで輸入していた研磨材が入手できなくなりました。そこで、照次は同僚と研磨材の研究を始めましたが、あと一息というところで終戦を迎え、量産には至りませんでした。

その後、1950年に照次が戦時中に行った研磨材の研究を知る光学機器メーカーから、「研磨材の研究を再開してほしい」と依頼が入ります。それに応えて、照次は自宅の一角を使い、設備手配から製品の量産・出荷までを約4ヵ月という短期間で実現させました。

先端産業への参入のきっかけ

精密研磨材の市場が主に光学レンズ向けであった1950年

代、当社の研磨材は市場から高い評価を得ていました。そのため、トランジスタラジオに用いられるゲルマニウム半導体基板の研磨に関する相談を受け、当社の研磨材が採用されることになりました。その後、電子機器が小型化と高機能化していく中で、高度な精密研磨のニーズが高まり、お客様の製品開発の早い段階から最適な研磨材についてお声掛けいただけるようになりました。このようにして競合他社に先んじて、市場が必要とする製品開発に取り組むことができたと言えます。

創業当時から現在に至るまで
市場の支持を集める製品づくり

当社の強みは「安定した品質」に尽きます。創業以来培ってきた独自の製造技術と自社設計の製造設備による品質のバラつきを抑えた安定した生産体制と品質管理体制を備えています。品質に対するこだわりは、他社に負けない自信があり



創業者 越山照次



創業時メンバー（照次は1番左）



1954年当時の荷姿



当時の製造の様子



当時の物理実験室

ます。コストダウンも重要ですが、品質を落としてまで追求することはしません。品質に関して一切の妥協をしないのが当社の信条です。

最先端半導体分野でシェアを維持・拡大するための積極的な開発投資

お客様である半導体メーカーは、各社の技術ロードマップに沿った半導体デバイスの高性能化に取り組んでいますが、その研究開発には莫大な費用が投下されています。当社としても、その性能に見合う研磨材を開発する必要があるため、1台数億円という高価な研磨装置や検査装置を導入しております。加えて、全従業員の約3割が研究開発に関わる業務に従事しております。一般的に日本の製造業が研究開発に投下する金額は売上高の5%ぐらいまでが普通であるのに対し、当社は約10%を投下しています。これは、お客様の最先端プロセスの開発に役立てるために不可欠な

水準であると認識しております。

業態の進化を目指して

当社はこれまで半導体市場を主たる事業領域とし、主に研磨材を製造販売してまいりましたが、半導体関連の売上は全体の約8割を占めており、半導体関連への依存が大きくなっています。安定かつ持続的な成長を遂げるためには、特定の市場や用途に偏ることがない事業構造が必要と考え、事業領域を研磨材からパウダー（粉）とサーフェス（表面）に広げ、業態の進化を目指しております。

当社は「表面を磨きたい」「表面を平らにしたい」というお客様のご要望に研磨材を提供するという形で役立ててまい

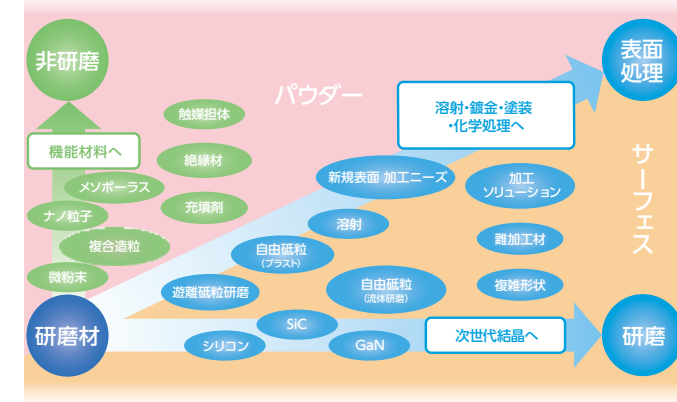


たが、お客様の要望により深く応えるためには、単に研磨材を提供するだけではなく、研磨周辺の消耗材に加え、研磨方法や研磨後の洗浄方法に至る一連の研磨プロセスに関するソリューションを提供することも必要になります。当社では、お客様がさまざまな材質や形状の新しい表面をつくりだす「表面創成」に取り組むべき新たな領域と捉え、研磨材の提供だけではない、その他の消耗材や装置などの領域にまで広げることを考えております。研磨以外の分野で20年前に立ち上げた溶射材事業は、耐摩耗性や耐腐食性を付加するために表面に溶射し、被膜形成するための粒子を製造していますが、これも研磨材ではない「表面創成」の領域で、当社が研磨材製造で培ったパウダー技術も生かせる分野となっています。

当社のパウダー製造加工技術は、さまざまな分野で役立てることができ、開発を進めているものの一つにリン酸チタン粒子があります。開発した粒子は高白色・板状、粒子

径と厚みが揃っていることが特長で、このリン酸チタン粒子を充填剤や塗料の添加剤などのさまざまな用途に展開してまいります。

■ 研磨材メーカーから「パウダー&サーフェスカンパニー」へ



当時の粉砕機（乾式）



現在の粉砕機（湿式）



研磨スラリーの製造（混合工程）



製品検査



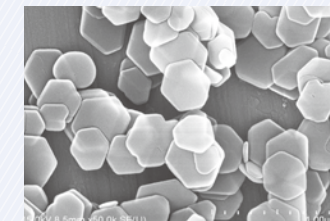
ロボット研磨（全体）



ロボット研磨（拡大）



3Dプリンターを用いて製作した超硬工具



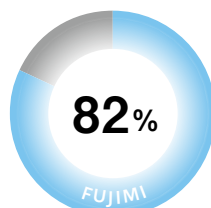
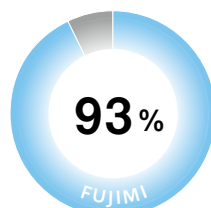
リン酸チタン粒子

【リン酸チタン粒子に期待される用途】
充填剤、滑り性改良材、塗料用添加剤、触媒等

企業として発展し続けるため、最も大切にすべきこと

2008年4月の社長就任から社内に発信していることに、「お客様目線の実践」と「ものづくり」があります。創業以来、技術の世代ごとに最高の品質が求められる半導体産業において高いシェアを獲得できたのも、お客様のご要望を深く理解して応えるだけでなく、期待を超える製品を提

■ シリコンウェハー製造工程における当社の世界シェア
(自社推計 2020年3月期)



供し続けてきた結果であり、お客様目線に立った成果と認識しています。この2つは今後も当社の従業員が業務を行う際に、真っ先に意識すべきことだと考えております。

近年、働き方改革が脚光を浴びています。当社においても2017年より年度経営方針に新たに「働きがいと働きやすさの醸成」を追加しました。仕事と子育てを両立させ、働きやすい環境をつくることによって従業員がその能力を十分に発揮できる両立支援、女性が活躍できる雇用環境の整備など、法定以上の制度を整えています。今年も新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、10月末現在も在宅勤務、分散勤務を実施しておりますが、かねてより働き方改革の中で試行していたこともあり、業務に支障は出ておりません。



半導体世界最大手の米国インテル社より2019年度SCQI*賞受賞
同社から2014年度より6年連続でアワードを受賞(SCQI: 2回、PQS*: 4回)

今後も「働きがいと働きやすさの醸成」に向けた取り組みを継続して進めてまいります。

社会貢献活動のきっかけと具体的な取り組み

当社はこれまで、社会福祉協議会への寄付、地域清掃、自然災害を被った被災地への義援金拠出などを行ってまいりましたが、創業70周年を迎えるにあたり、会社を挙げて社会貢献に取り組むことを決定しました。

当社は、製品の生産活動において地下水を大量に使用していることから、使用した水を自然に返す意味を込めて「Water Offset」をスローガンに、岐阜県下の石徹白で水を育む森づくりに取り組んでまいります。

石徹白地域は人口わずか250人の小さな山村ですが、持続可能な農村を目指して小水力発電や地域づくりの取り組みがなされています。私も本年9月に、石徹白の皆様や岐阜県

立森林文化アカデミーの学生と一緒に、実際に山へ入って現状の把握をしました。そこでは、かつて植樹した杉が伐期を迎え、皆伐後の跡地は天然更新*の結果、場所によっては人の背丈以上の高さまで笹が覆い、その他の植物が生育し難い状態になっています。今後、当社が目指す水を育む森の実現に向けて検討を進めてまいります。活動の状況については、当社ホームページを通じて紹介していく予定です。

10年後、20年後に向けて

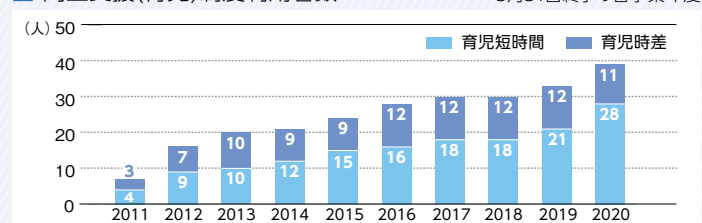
時代の動きに柔軟に対応しながら、当社を取り巻く業界のさらなる発展と、人々が快適に暮らせる未来づくりを目指して邁進する所存です。

最後に、株主の皆様にはこれまでのご支援に対して深く感謝の意を申し上げます。引き続き企業価値向上に取り組んでまいりますので、今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

当社の育児・介護支援の枠組み

育児・介護	項目	法定	当社
育児支援	育児休業	1歳まで (例外: 2歳 保育所に入所できない場合)	1歳6ヶ月まで (例外: 2歳 保育所に入所できない場合)
	時短勤務	3歳まで	小学校4年生修了まで
	時差勤務	なし	小学校4年生修了まで
介護支援	介護休業	通算93日	通算93日
長期介護支援	介護休業	なし	通算3年間

両立支援(育児)制度利用者数



女性従業員の育児休業取得率は2010年度より100%と高い水準を維持しています。
育児休業取得率 = 育児休業取得者数 ÷ 出産した従業員数

SCQI (サプライヤー・コンテニューアス・クオリティ・インプルーブメント) 賞

インテル社が最も傑出したサプライヤーを表彰するもので、品質、コスト、供給体制、技術力、カスタマーサービス、労働・倫理要件、環境面でのサステナビリティ(持続可能性)において、極めて高い水準を達成したサプライヤーに授与される。

PQS (プリファード・クオリティ・サプライヤー) 賞

インテル社がその絶えまない卓越性への追求と確固としたプロフェッショナルな事業活動を行うサプライヤーを表彰するもの。



石徹白 (岐阜県郡上市白鳥町)



石徹白の風景



植物の種類を学ぶ様子

天然更新

森林の伐採後、植栽を行わず、自然に落下した種子から樹木を育成させることで再生を図る方法。

用途別の動き

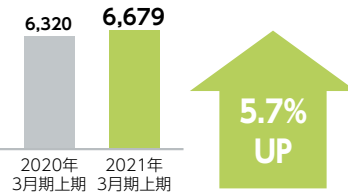
シリコンウェハー用

売上構成比 32.7%

半導体業界の稼働が高かったことに加え、シリコンウェハーの在庫積み上げの動きもあったことから、ラッピング材の売上高は2,158百万円(前年同期比17.7%増)、一方、ポリシング材の売上高は前期末において一部顧客で当社製品の在庫積み増しがあったことから、前年同期並みの4,521百万円(前年同期比0.8%増)となりました。

半導体基板となるシリコンウェハーを高精度に平坦化・鏡面化する研磨工程で用いられる研磨材を研究開発し製造販売する事業です。

■売上高(単位:百万円)



シリコンウェハー

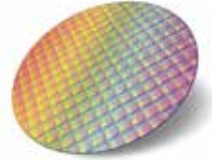
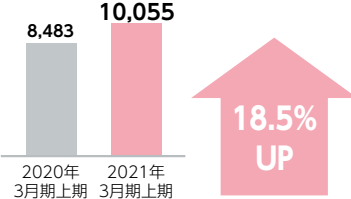
CMP用

売上構成比 49.2%

データセンター及びPC向け需要の増加に伴う半導体業界の高稼働を背景に、ロジック、メモリともに最先端デバイス向け製品の販売が増加したことにより、売上高は10,055百万円(前年同期比18.5%増)となりました。

半導体デバイスの製造工程で用いられる研磨材を研究開発し製造販売する事業です。

■売上高(単位:百万円)



デバイスウェハー

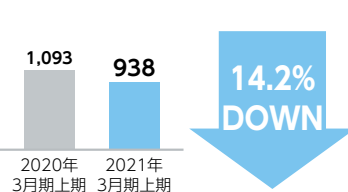
ディスク用

売上構成比 4.6%

SSD(ソリッドステート・ドライブ)への置き換えによる市場の縮小及び顧客の生産プロセスの変更の影響により、売上高は938百万円(前年同期比14.2%減)となりました。

デジタルデータの記録媒体であるハードディスクドライブ用ディスク基板の製造工程に用いられる研磨材を研究開発し製造販売する事業です。

■売上高(単位:百万円)



データセンター

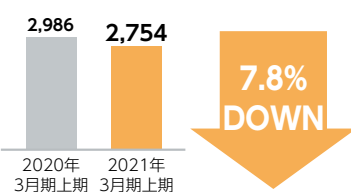
一般工業用・その他

売上構成比 13.5%

非半導体関連の一般工業用研磨材につきましては、自動車及び産業機械向け需要の低迷により売上高は1,699百万円(前年同期比2.4%減)、その他につきましては、1,055百万円(前年同期比15.3%減)となりました。

多種多様な用途向けに研磨材や機能性材料を提供しております。また、半導体装置、航空機及び鉄鋼などさまざまな業界の溶射用途向けに溶射材を提供しております。

■売上高(単位:百万円)



溶射材の主力製品 SURPREX

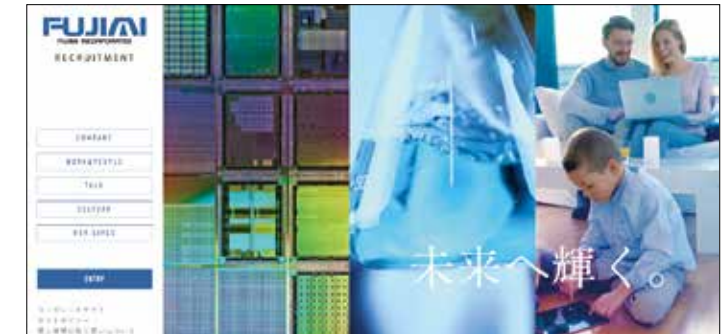
NEWS&TOPICS

採用ホームページの開設

2020年10月に、「採用ホームページ」を新設しました。

当社の事業内容をはじめ、就業環境や実際に活躍している従業員の声など、学生の皆さんにとってわかりやすく、当社のことを身近に感じていただけるような内容・構成となっております。

<http://www.fujimiinc-recruit.com/>



東海ラジオ放送「東海ものづくり大学」に出演

2020年11月30日(月)東海ラジオ放送「東海ものづくり大学」に当社社長が出演しました。東海地区の「ものづくり企業」のトップに、これまでいかにして未来を切り開いてきたのかをインタビューし、この時代を生き抜く知恵や元気をお届けする番組です。放送内容は東海ラジオ放送ホームページにて聞くことができます。

東海ラジオ放送「東海ものづくり大学」
<https://tokaimonozukuri.net/>

ぜひ「東海ものづくり大学」をお聞きください。



連結財務諸表

連結損益計算書	前第2 四半期 連結累計期間	当第2 四半期 連結累計期間
	(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
売上高	18,884	20,427
売上原価	10,759	10,985
売上総利益	8,124	9,441
販売費及び一般管理費	5,261	5,722
営業利益	2,863	3,718
営業外収益		
受取利息	61	42
為替差益	7	—
その他	50	58
営業外収益合計	119	101
営業外費用		
為替差損	—	107
その他	7	17
営業外費用合計	7	125
経常利益	2,974	3,694
税金等調整前四半期純利益	2,974	3,694
法人税、住民税及び事業税	778	1,000
法人税等調整額	△15	△160
四半期純利益	2,212	2,855
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,212	2,855

(単位：百万円)

売上高

SSDへの置き換えによる市場の縮小や顧客のプロセス変更の影響でハードディスク向け製品の販売は減少したものの、データセンター及びPC向け需要の増加に伴う半導体業界の高稼働によりシリコンウェハー向け及びCMP向け製品の販売が好調に推移し、売上高は前年同期比8.2%増の20,427百万円となりました。

営業利益

前年同期比29.9%増の3,718百万円となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益

前年同期比29.1%増の2,855百万円となりました。

海外売上高 (仕向先別)

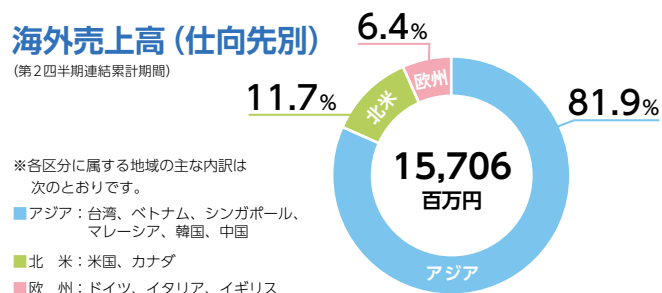
(第2四半期連結累計期間)

※各区分に属する地域の主な内訳は次のとおりです。

■アジア：台湾、ベトナム、シンガポール、マレーシア、韓国、中国

■北米：米国、カナダ

■欧州：ドイツ、イタリア、イギリス



海外売上高

	前第2 四半期 連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2 四半期 連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
海外売上高	14,212	15,706
連結売上高	18,884	20,427
連結売上高に占める割合	75.3%	76.9%

(単位：百万円)

連結貸借対照表

	前 連結会計年度	当第2 四半期 連結会計期間
	(2020年3月31日)	(2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	23,769	26,507
受取手形及び売掛金	8,228	8,119
有価証券	1,499	1,699
たな卸資産	7,295	7,499
その他	503	261
貸倒引当金	△ 18	△ 18
流動資産合計	41,279	44,070
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	6,788	6,665
その他(純額)	7,144	7,215
有形固定資産合計	13,933	13,880
無形固定資産	437	383
投資その他の資産		
投資有価証券	2,939	3,096
繰延税金資産	787	893
その他	129	112
貸倒引当金	△ 9	△ 9
投資その他の資産合計	3,846	4,092
固定資産合計	18,217	18,356
資産合計	59,496	62,426

	前 連結会計年度	当第2 四半期 連結会計期間
	(2020年3月31日)	(2020年9月30日)

負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,499	2,687
未払法人税等	767	898
賞与引当金	1,242	1,386
役員賞与引当金	—	57
その他	1,886	2,340
流動負債合計	6,395	7,370
固定負債		
退職給付に係る負債	752	768
株式給与引当金	157	297
その他	111	165
固定負債合計	1,021	1,230
負債合計	7,416	8,601
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,753	4,753
資本剰余金	5,570	5,570
利益剰余金	47,124	48,802
自己株式	△ 5,449	△ 5,448
株主資本合計	51,998	53,678
その他の包括利益累計額	80	146
純資産合計	52,079	53,825
負債純資産合計	59,496	62,426

(単位：百万円)

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は、前年同期に比べて1,548百万円増加し、4,773百万円の収入となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益及び株式給付引当金が増加したことに加え、売上債権が減少したこと等によるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果支出した資金は、3,395百万円となりました（前年同期は20百万円の収入）。これは主に、定期預金の払戻による収入があったものの、定期預金の預入による支出があったことによるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フロー

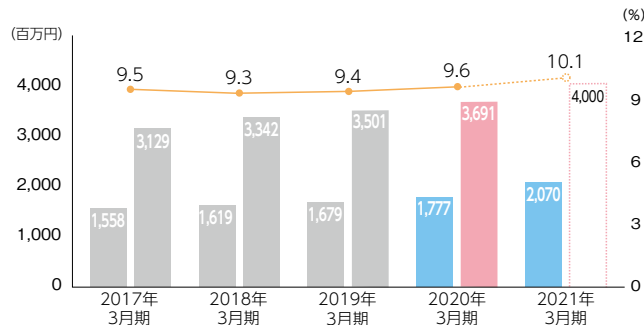
財務活動の結果支出した資金は、前年同期に比べて9百万円増加し、1,202百万円となりました。これは主に、その他の財務活動の支出が増加したこと等によるものであります。

配当金及び連結配当性向の推移

当社は、株主に対する適正な利益還元を行うことを経営の重要課題と認識し、配当につきましては連結配当性向を50%以上とすることを目標として、業績に応じた積極的な株主還元を実施するとともに安定配当の継続にも留意することを基本方針としております。このような方針のもと、中間配当は1株につき50円とし、年間配当金は1株につき100円とする予定です。

研究開発費・売上高比

折れ線グラフ：売上高比（右軸）

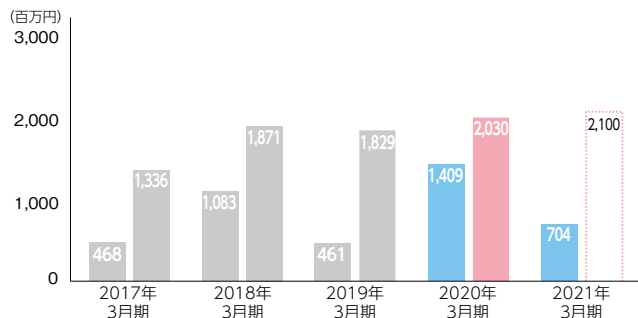


連結キャッシュ・フロー計算書	前第2 四半期 連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2 四半期 連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
	営業活動によるキャッシュ・フロー	3,225
投資活動によるキャッシュ・フロー	20	△3,395
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,192	△1,202
現金及び現金同等物に係る換算差額	△196	△31
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,856	145
現金及び現金同等物の期首残高	22,559	22,919
現金及び現金同等物の四半期末残高	24,415	23,064

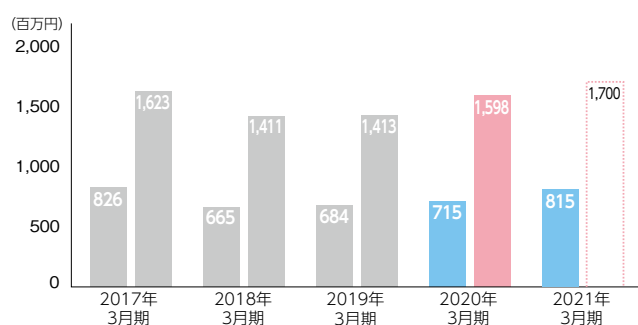
(単位：百万円)

■ 上期 ■ 通期 ※2021年3月期通期予想値

設備投資



減価償却費



株式情報

2020年9月30日現在

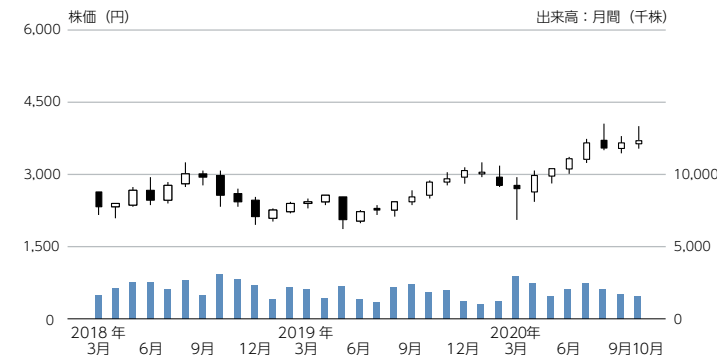
株式の状況

株式数	発行可能株式数	120,000千株
	発行済株式総数	28,699千株
	株主数	5,248名

大株主 (株主名)	持株数 (千株)	持株比率 (%)
有限会社コマ	3,743	13.0
株式会社フジミンコーポレーテッド	3,667	12.7
日本スタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	2,168	7.5
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	1,541	5.3
株式会社かんぽ生命保険	875	3.0
株式会社三菱UFJ銀行	728	2.5
越山 勇	717	2.4
フジミ取引先持株会	680	2.3
日本生命保険相互会社	639	2.2
一般財団法人越山科学技術振興財団	600	2.0

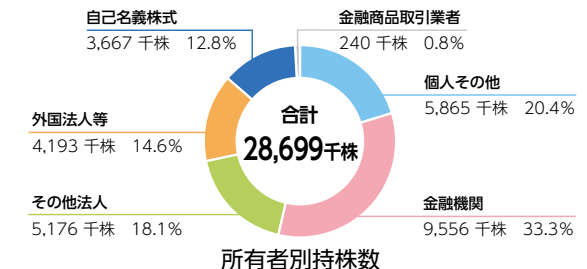
* 持株数は千株未満を切り捨て、持株比率は小数第2位を切り捨てています。

株価及び出来高の推移



株主分布状況

2020年9月30日現在



役員

2020年
9月30日現在

代表取締役社長	関 敬史
常務取締役	伊藤 広一
取締役	大脇 寿樹
取締役	鈴木 勝弘
取締役	川下 政美*
取締役	浅井 侯序*
常勤監査役	藤川 佳明
監査役	高橋 正彦**
監査役	岡野 勝**

* 印は社外取締役 ** 印は社外監査役

会社データ

2020年9月30日現在

商号	株式会社フジミンコーポレーテッド
証券コード	5384
本社所在地	愛知県清須市西枇杷島町地領2-1-1 TEL. 052-503-8181 (代表)
設立年月日	1953年(昭和28年)3月20日
資本金	4,753百万円
代表者	代表取締役社長 関 敬史
従業員	947名(単体663名)